津和野高校
同窓会報

VOL.45
2009年3月

巻頭 **開校101年。**
津高100周年記念事業の全貌

特集 **案山子の真相**
さだまさしコンサートで名実に

師走の集い
平成20年度総会・懇親会

一万人の署名活動始まる

母校への更なるご支援を！

新役員決まる

往年の津高
ジャーナリズム

※本会報に使用のさだまさし氏の写真は、主催者の100周年実行委員会による撮影（転用不可）

今年、津和野高校は創立二世紀。

開校101年。

100周年事業のあれこれ。そして「次の一歩」の始まり

振り返ってみると、何ひとつ誇れることも、胸踊ることもなかった津和野高校時代…。

だけども、津和野高校３年２組のクラス会はなぜか、小学校から大学を通しても、一番回数が多い。なぜだろう…。

それはたぶん、思春期の一番多感な時期を同じ時代を生きる仲間と過ごし、何気ない日々の移ろい中にも、キラキラするような瞬間（とき）を共有できたから…、じゃないかなぁ。

2008 年 9 月、津和野高校創立 100 周年事業。去り行く夏の気配と共に、あの熱く駆け抜けるように過ぎていた 10 日間から、また僕たちはひとつ歳を重ね、同じように津和野高校も 101 年目を迎えた。

101 年目の旅立ちを始めた今、もう一度あの 10 日間を振り返ってみよう。

100 周年記念事業実行委員会

結成から２年余り、時には行ったり来たりの堂々巡りが続き、幾度となく集まる企画会議は、永遠に続くんじゃないかと思えた。委員の皆さんの年齢性別は違っても、一つの目標に向かって根気強く走り続けた。だから、さだまさしコンサートの終わった後の打ち上げ（当然、全額自費）は弾けた。普段、カラオケなど歌ったことのない男の口からビートルズの歌がこぼれていた……。

街に出た津高「本町教室」

OB のたまり場を、と本町に開設。

旧校舎の貫録ある黒板、写真パネル、昔の教科書、果ては女学校の瓦まで、さまざまな時代の片鱗が集結したミニ資料室になった。現在は高校の一教室で 100 年の津高年表とともに公開中。機会があればぜひ。

ＣＡＴＶ「お～い！津和野高校 100 人からのメッセージ」

広報企画部桑原部長のメッセージで始まる予定が、ＣＡＴＶサンネットニュースのキャスターのコメントとダブりお蔵入り。結局、桑原部長は最後に登場。野球部ＯＢ会のメンバーの協力のお陰で、登場人数は最終コーナーを驚異的に追い上げ、実際は 100 人以上に至った。感謝！

100 周年事業ホームページ「万朶の集い on Web」

アクセス数は 2 月 20 日時点で 36,000 をマーク。現在 320 枚の津高の写真がインターネットで見られる。また 100 人からのビデオメッセージもサンネットで Vol.1 ～ Vol.17 まで動画配信されており、こちらのリンクも掲載中だ。

URL は　**http://tsuko100.madbam.jp/**

フォーラム「夢を叶える」

現役高校生がパネラーの諸先輩の言葉から「夢は叶う」というメッセージを感じ、バンプオブチキンのＢＧＭと共に紹介ビデオに共感してくれた。津高生意識アンケートでは、高校生の今を切り取った。パネラーの３氏からは「よくぞ！呼

んでいただいた。」とのお言葉をいただき、実行委員会メンバーはホントにうれしかったなぁ。

フォーラムの司会進行役、ＮＨＫ松江放送局藤原キャスターさんのノートパソコンが本番直前、舞台準備中で破損！練り上げた台本がないまま、涙をふいてけなげに進行する彼女の姿は、まともに見られなかった。感謝陳謝。

さだまさしコンサート

津和野高校ＯＢ、ＮＢＣ長崎放送の冨田会長のお骨折りで実現。コンサートを取り仕切った広島、ユニオン音楽事務所社長は「実にスムーズな運営。津和野高校創立記念としては、結果的にもさだまさしさん以外には選択肢はなかったね！」と語る。当初は舞台の都合で、座布団敷いてのコンサートも検討されていたって知ってる？

———まだまだ書ききれない。とにもかくにも、大勢の卒業生、諸先生、在校生、無理難題に涙をのんでいただいた各業者さん、そして津高 100 年の歴史に感謝。

記念式典に掲げられた事業のスローガン「次の一歩へ」のパネル。実行委員会では有志を募り、山陰中央新報の全面15段広告を掲載。他の高校では類を見ない、贅肉をそぎ取ったデザインで山陰両県に「津高 100 年」をアプローチした。

100周年記念式典

（写真上）100 周年記念式典にて。上から村上校長、澄川同窓会長、そして同窓会東京支部長・青木勤氏。

（写真下）先生、全生徒も受付・接待におおわらわ。女子生徒はスリッパを差し出したり麗しい光景も。できれば普段の家庭でもお父さんにしてあげよう。

NHK の取材も高校の事業としては異例の一週間張り付き。メイキングや式典の様子が中国五県の番組でも放映された。

シンポジウム「夢を叶える」

シンポジウム『夢を叶える」ではスクリーンにプロジェクトＸ風に編集したパネラーの生き様を上映。また成功者の意見だけでなく高校生の希望と葛藤を取り上げた。

シンポジウムで「夢を叶える」ことについて質問する在校生。みんないい表情してる。

時代や自らの状況に関係なく『夢は掴み取るもの」というパネラーの熱いメッセージが生徒達の心に深く届いた。

記念祝賀会

場所を変えて津和野体育館で懇親会が盛大に行われた。正に老若男女、祖父と孫にあたる年齢層が一同に介しての宴。

オープニングは津高合唱部による校歌。津高の夏セーラーで奏でる伝統ある歌姫は、今も昔も変わらない。淡い高校時代の思い出が過る。

つい２年前は現役津高生だった青木香奈絵さんによる独芝居のステージ。現在はサンネットにちはらで制作・キャスターを努め、シンポジウム「夢を叶える」の秀逸なプロモーション映像を手がけた。

記念祝賀会

H11 年卒の右田太司君が漆黒のステージに浮かび上がる和太鼓の演奏。この祝賀会のためにオリジナルの楽曲を、かつてならしたプロの腕前で披露してくれた。
粛々と始まり、やがて大粒の汗を流す迫力のバチさばき。重厚な大太鼓の音が観客の身を引き締まらせた。

日本テレビ系「太田総理」にも出演する若手議員の一人、亀井亜紀子参議院議員も祝いの席に駆けつけてくれた。
母校が甲子園に出場することの誇りについて語る。

やはり盛り上がった校歌斉唱。女子校、旧制中学、新制高等学校と恒例の三部構成で高らかに歌う。いつもは集会室とか程よいステージだが、今回の体育館ではのびのびと。

100 のロゴマークの入ったブリティッシュグリーンのポロシャツ軍団。この記念大会で誂えたユニフォームで世話をしたスタッフの面々。ドリンクやフードなどのサービス、本当にご苦労様。このあとの打上会場は、久しぶりに集まった幹事年 S55 年卒業生を中心に、20 代から 60 代までが津高話に花を咲かせた。

「案山子」の真相

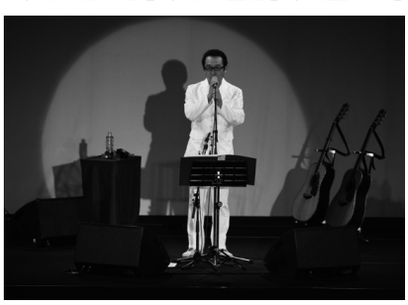
100周年記念さだまさしコンサートで名実の元に

津和野のコンサートで最大動員、千人の感動。

2008年9月7日、100周年記念事業のフィナーレを飾った「さだまさしアコースティックコンサート」には、津高卒業生はもとより、町内や、遠くは鹿児島、関東圏から約1000人が集結。

実行委員会では、津和野体育館で初のメジャーなソロコンサートに、観客が楽しめるのだろうか、さまざまな心痛を巡らした。紆余曲折の末、ステージ全体を嵩上げし、後列からもしっかり見えるように大規模な工事を敢行。地元イベント会社の献身的な施工の結果、漆黒のステージがお目見え。さだまさしの白いカジュアルな姿は、会場のどこからもくっきりと浮かび上がった。

「北の国から」「関白宣言」「精霊流し」



「秋桜」などお馴染の数々の名曲を、美しい歌声と楽しいトークで魅了した。

特に今回、さだまさしと津和野の長い関わりについてを披露。デビュー前から津和野には来ているとのことで、途中の長門峡で滝に落ちた話や、「京都」や「奈良」に行くのは旅行の素人で、津和野に来るのが玄人と語り、観客の笑いは絶えなかった。

卒業旅行で「錦座」の焼失に遭遇。

津和野にまつわる話で驚愕したのが、卒業旅行で津和野に来て、城山に上った時の話。なんだか煙が出てるなあ、と気がつくと方角は宿のあたり。火事だと急いで山を下りていくと映画館が燃えていた。そう、津和野の娯楽の殿堂「錦座」(焼失時は「津和野映劇」) の終焉に、若き日のさだまさしは野次馬として立ち会ったわけである。

「案山子」のモデルは津和野と、もうひとつの風景。

このコンサートの最大の目玉は、あの名曲「案山子」はやはり津和野がモデルなのか、という点であるといっても過言ではない。

音楽著作権の関係上、紙面に歌詞は掲載できないので、ご存知ない方には伝わりにくいのだが、まさに津和野の情景が目に浮かぶ内容だ。

城跡から、無骨に、そして優しく、遠く故郷を旅立った息子に語りかける。見下ろした情景は、津和野そのもの。

さだまさしは長年、この曲を日本のふるさとの原風景としてとらえ、その場所については明言してはいなかった。しかし一昨年、益田グラントワでのコンサートでその舞台が隣町の津和野であると発言。本コンサートで、遂に詳細を述べてくれた。

「案山子が忘れ去られて雪をかぶっている、というくだりがあり、農家の方に、そんな無礼はしないともお叱りをうけました。実は田圃の中に立つ雪をかぶった案山子は、九州の列車の中から見た風景です。九州では滅多に雪が積もらないので、そこで季節外れの雪が積もり、情景として目に焼き付いていたんですね。」とのこと。

つまり

『城跡から見下ろす 蒼く細い河橋』『造り酒屋のレンガ煙突』『山の麓に煙を吐いて走る列車』など、やはり津和野が舞台ではあるが、『田圃にぽつり置き去りにされた案山子』は九州の田舎での情景であることが判明した。因みに、この「案山子」の語り部は誰なのかという点にも諸説あり、実は三本松の一本の松が語っているという説もある。

さだまさしは、掛け値なく、津和野人以上に津和野通である。

師走の集い

平成20年度 総会・懇親会開催さる

例年なら、夏の盆休みに行なわれる本同窓会の総会・懇親会。今年度は100周年事業でスケジュール満載のため夏には行わず、去る12月14日、のれん宿「明月」で行なわれた。

師走の忘年会シーズン、公私共に忙しい中を40名のOB/OG、校長・教頭先生、事務局長に参加いただいた。

役員改選や規約改正など数々の総会議題も無事通過し、お楽しみの懇親会へ。

さながら100周年事業の反省会の様相を呈するのではと予想したところ、そこはやはり同窓会。世代を越えて津高時代に話が咲く。正副会長からの太っ腹なビンゴゲームのあと、校歌斉唱では全員で大合唱。かつてのマドンナと肩を組み、老舗旅館のガラス戸を鳴り響かせていた。最後に、当番幹事S55年卒から恒例となった「伝達式」で後輩いじめ。まだお越しになったことがない方、今年はぜひお待ちしております。

引き継ぎ指令書

津和野高校は本年9月4日、めでたく創立100周年を迎え、同窓会としてさまざまな記念事業、募金活動を行い、多大な成果を修めました

この幹事年である55年卒業生は、大変な一年であったかのように周囲にはみられてはおりますが、実際には多くの諸先輩に助けられ、ある意味では「たなぼた」の一年でありました。

反面、次回同窓会を行う貴56年卒業生諸君は、100周年事業の疲労困憊で抜け殻と化した諸先輩の元、多くの難題と自己の啓発を強いられることが予想され、同情の感をぬぐえません。

100周年のあとと、しらけることなく、次回総会・懇親会の幹事を立派に努めあげることを願いここに引き継ぎを要望する次第です。

目標一万人の署名活動、始まる。

津和野高校後援会では、要望書提出のためにこの春より署名活動をスタートする。いよいよ中高一貫教育の実現に向けて具体的な動きが始まる。

津和野町における併設型中高一貫教育学校の実現を求める要望書

島根県立津和野高等学校は、明治四一年の学校創立以来、本年で百周年の節目を迎え、その輝かしい歴史の中で一万四千名を超える卒業生を世に送り出しております。先の、九月五日、その記念式典が盛大に挙行され、地域住民の津和野高校を想う熱気が満々とする中で、次の一歩を踏み出したところであります。

しかしながら、過疎化・少子高齢化が急激に進行する中山間地域にありまして、津和野高校の置かれている現状は大変厳しいものがあり、近い将来、その存続も危惧されるところまで至っていると認識を致しております。

一方、教育はもちろんのこと地域振興の観点からも津和野高校の担っている役割は大変大きなものがあり、また、高校がなくなれば、単に町から津高生の姿が消えるだけでなく、永い歴史と伝統によって醸成された教育と文化の精神的支柱を地域住民は失うこととなります。

このように、津和野高校の存続・発展は、この地域の発展及び活性化に有形、無形の影響を与えることは明白であります。

伝統ある津和野高校の学び舎とともに日々暮らす住民として、以上のような諸事情をご拝察いただき、併設型中高一貫教育学校の実現により、高校の未来を確かなものとしていただきますよう強く要望いたすものであります。

今回の要望内容は、少子化による入学対象生徒数の減少を背景に、そのことに整合する形で、現行の一学年二学級を、一学年一学級とし、従来と同様、鹿足郡を中心とした地域より生徒を募集し、新たに、中高一貫教育学校、一学年一学級を併設し、全国より生徒を募集するというものであります。

この方法により、地域の小中学校への影響を最小限に抑えながら、全国から生徒が集まる魅力ある津和野高校が誕生するものと確信を致しております。

先哲西周や文豪森鷗外など多彩な人材を輩出した、藩校「養老館」以来の教育的伝統を持つ津和野町と地域住民にとりまして、今回の要望の実現により、津和野高校が、平成の「養老館」として復活し、全国に通用する高次元の教育システムが構築できるものと信じております。

島根県の高校教育のパイオニアモデルとして、是非とも趣旨をご理解の上、ご高配を賜りますよう、お願い申し上げます。

記

一・津和野町に島根県立の併設型中高一貫教育学校を創設する。

二・津和野高校の募集定員は、一学年一学級四〇名とし、現行の校区より募集する。

三・津和野高校に併設する六年制中高一貫教育学校の募集定員は一学年一学級四〇名とし、全国より募集する。

島根県知事様

島根県教育委員会　教育長様

母校への更なるご支援を！

校長　村上達雄

日一日と春めいてまいりました。皆様、お元気でお過ごしでしょうか。平素は津和野高校の教育に温かいご支援をいただき有難うございます。お陰さまで着実な教育活動ができております。

本校に赴任して2年が経とうとしています。赴任時に考えましたことは学校経営を二つの視点から行うということでした。一つは眼の前の現実に適正に対応すること、二つめは長期的視点に立って経営を考えるということでした。

一つめに関しましては同窓会･保護者･教職員の皆様の協力を得まして生徒は落ち着いた生活ができるようになり、各分野での成果が出てきつつあります。

二つめにつきましては校区内の今後の児童・生徒数の推移を調べてみました。子供の数は毎年減ってきており、平成19年5月1日現在、満1歳児が津和野町で43名､鹿足郡で76名でした。今後、生徒の数は更に減少していくと考えられますので、このまま何もしないでいると津和野高校は十年前後で消滅してしまう可能性が大であるということが分かりました。

そこで、津和野高校後援会の活動が始まったわけであります。

同窓会の皆様の熱いご支援のもと、後援会を中心とした津和野高校存続・発展の活動が展開されてきており、心より感謝いたしております。

昨年6月、後援会総会が開かれ、「併設型中高一貫教育学校を津和野に設置するよう県に要請しよう」ということが決議されました。この決定に基づき、後援会は津和野高校の存続・発展の活動を展開してきています。6月の総会以降の後援会の活動につきまして私の承知している範囲で以下にお知らせします。

8月11日、中島町長、中村県議が藤原県教育長に会い、併設型中高一貫教育学校を津和野に設置するよう提言書を提出しました。

10月28日、町長、県議が溝口県知事と面会し、併設型中高一貫教育学校を津和野に設置することについて協力を要請しました。

12月5日、後援会は町議会に「併設型中高一貫教育学校の設置を要望する意見書」を県に提出するよう請願を出しました。現在、町議会で請願について審議中です。

1月21日、第3回後援会総会が開催され、後援会内に、①津和野高校が町に及ぼす経済効果などについての調査・研究部会と併設型中高一貫教育学校で行う教育内容についての検討部会を設置する、②地域説明会や署名活動を行い、住民の支持を得ていくことが決定されました。

高校が無くなると津和野町は活力を失ってしまいます。後援会は｢危機をチャンスにし、津和野という町の歴史的・文化的資源を活かして、全国に発信できる新しい学校を作り、教育立町、観光立町として21世紀を雄飛できる町作りにつなげよう」との方針で活動しています。

校長といたしまして津和野高校が存続・発展していくための活動に感謝いたしますとともに、後援会の活動に対しまして更なるご支援をお寄せいただきますようお願いいたします。

津高の永久保存版

遂に刊行

津和野高校 100周年記念誌

B5版上製本／箱入り
販売価格 一冊3,500円（送料含む）

すでにご予約の方には、3月中旬、代金振込みの案内状を発送する予定です。
なお若干の予備もございます。予約なしでお求めの方は、3月16日までに同窓会事務局までお問い合わせください。
（先着順とし、売切れの際はご容赦ください。）

新役員決まる。

12月17日、平成20年度同窓会総会において、役員任期の満了に伴う正副会長と理事の信任が承認された。
100周年事業の開催のため、任期を先延

ばしし、万全を期した後のこの度の改選となった。

会長は、今後の津和野高校中高一貫モデルの推進のため、総会出席者の総意のもと、引き続き就任。

また理事は4名が勇退、新人5名の大モデルチェンジとなった。
新役員は次の通り、任期は3年。

●会長　澄川照一（S30卒）
●副会長　青木克弥（S35卒）
●副会長　桑原泰彦（S48卒）
●理事　（以下順不同）
大内宗泰（S39卒）益井活子（S44卒）
石川卓夫（S50卒）藤山　宏（S54卒）
青木利久（S55卒）下森博之（S59卒）
●監　事
吉岡知幸（S47卒）岡本恭子（S48卒）

お蔵出し

往年の津高ジャーナリズム「津高新聞」「津和野タイムス」

県下初の高校紙「津高新聞」に感心しきり

100周年記念事業のひとつである「記念誌」が目下編纂中である。その資料探しでかなりの数の津高新聞バックナンバーが出てきた。驚いたのはそのクオリティの高さ。現在のようにワープロやパソコンでの編集が無かった頃、自分たちの意見が「活字になる」という行為は多くの責任と達成感が伴ったであろう。どの紙面を見ても、内容・文面ともに気迫とオリジナリティがあり、見習わなければいけないことしきり。

面白いのが、昭和40年頃の「いわせてもらうヨ!!」というコラムでは、学校の先生にズバズバ物申しているコーナーがあり、やはり反体制の時代を反映していると予測される。このように、世情も浮き彫りになっていて飽きない。

枚挙にいとまが無いが、一部取り上げてみる。

『長髪、ついに許可さる』

長髪問題は、我が校の長年の課題であった。執行部で、毎日のように委員会を開き（略）ついに6月16日に解決したのである。

（昭和44年7月号・生徒会長の執筆）

『今や津高も住宅難』

各クラブを訪問し、部室の住宅難を取り上げる。それは独立型・兼用型と分類され（略）庭球部、まさに物置小屋で、一応「戸」らしきものがあるがあまりにお粗末だ。

（昭和34年6月号）

ひときわ目を引く「津高漫評」というコーナー。学生生活をいきいきと、時に風刺を交えて。時代につれよりファンシーなイラストに変遷してゆく。（昭和34年10月号記載）

『映画実態調査 一ヶ月に一人三回』

山村に住んでいる我々にとって映画館は最大の楽しみであり（略）新聞部では、公会堂（津和野）、映劇（津和野）、日原会館、八千代館（徳佐）、中央館（地福）の五館で上映されている映画を対象に調査してみた…

（昭和34年12月）

『青春ルポ　男女交際』

「あなたは今、一対一の個人的に異性と交際をしていますか」のアンケートで男女併せて26%（略）「あなたは今、文通していますか」という質問には…

（昭和36年2月）

『生徒会誌　たくご発行』

津高新聞の狭い紙面に体育祭などの行事を載せると、どうしても反省がおろそかになってくるので、部員が苦心し生徒会誌を発行させることになった。我を磨くという意味の「たくご」と決定。　（昭和42年2月）

『津高応援歌決まる』

応募15編の中から先生及び応援団部員72人の投票の結果、二つの応援歌が決まった。　（昭和33年6月）

……といった具合に、思わずそうだったのかと膝を叩く記事から、「異性」「文通」など懐しい言葉や時代風景が妙に新鮮だ。

記念誌に津高新聞の抜粋がアーカイブ版として。

これらの貴重な紙面が、今年発刊予定の「100周年記念誌」のグラビアページに盛り込まれる予定。それぞれの時代に想いを馳せ、高校新聞でめぐるタイムトラベルも一興。ぜひ書庫に加えてみてはいかがだろう。

（下）漫画のやっちゃんと呼ばれていた島田康夫氏による寄稿。島根県高校生漫評の先駆者として他校からも絶賛をあびていた、とある。イラスト下の「短信」に家庭クラブで災害地に共同募金、との記載。現金6千円とは当時でかなりの金額ではなかったかと推測される。（昭和33年12月号）

津高新聞は昭和24年5月26日創刊。編集発行人は津高新聞班で編集長は武本豊氏。タブロイド判2面で1面が8段。「島根県下の（新制）高等学校で最初の学校紙であったことは永久に誇るべきであろう」とある。まさに偉業だ。後に新聞部となり、昭和37年、写真部と統合、報道委員会が誕生。校内外のトピックスの蒐集に奔走していたという。

18号から一時「津高タイムス」と改称、21号からまた「津高新聞」に還っている。名や形を変え、さまざまな高校生活を綴ってきた。本格的な津高のジャーナリズムに脱帽。

トピックス

母校の近況あれこれ

初の「オープンキャンパス」でうれしい志願者増大

初のオープンキャンパスを報じた第1回目の新聞折込みチラシ

津和野高校では昨年初夏から秋にかけて、初となるオープンキャンパスを実施した。郡内や益田、徳佐にチラシを打ち、さまざまなカリキュラムを行った。

第１回目の６月 28 日には 34 名、２回目７月 25 日に 68 名、第３回目の 10 月 25 日には 120 名の参加者があった。

授業や部活の体験などをはじめ、第３回目には英数の高校入試対策、そして寮の食事会が大好評。また町内観光という企画もあって、教育環境の素晴らしさを確認いただけたことだろう。参加者には保護者も多く含まれ、寮生活や環境に対しての関心の高さが伺えた。

広報のための印刷や折込み費用の一部は 100 周年事業の寄付金が使われ、早速、存続のための効果が表れた格好だ。

これらが功を奏してか、60 名前後と予想されていた今春の入試志望者は、72 名の大幅アップ。益田市内、阿東町からの志願者が増えたことは吉報だ。

全国からの温かい寄付が総額1900万円にのぼる

ご存知のように、100 周年実行委員会では事業運営の他、津高の教育環境整備等のため、全国の卒業生に一口 5000 円の寄付を募った。目標額は 1400 万円。不況の中、この数値を達成するには、かなりの努力が必要と、実行委員一同、腰を据えて活動を行ってきた。

結果として、昨年末現在で、目標を大きく上回る 1900 万円のご厚情が寄せられた。特筆すべきは、大口はもちろん、一口ながらご高齢の方や遠く離郷された方、そして卒業間近の在校生からも貴重な寄付を寄せてくれた。母校への愛と存続のための温かいご誠意に、委員会一同、気持ちを引き締め、有効的な使い道を考えていく決心だ。

なお、100 周年記念事業での経費状況などは、記念誌の発行後、寄付者や関係諸氏にご報告する予定。

文武両道の津高生、今年度も輝かしい成績を修める。

■二年の江山優君が将棋で気を吐いている。高校クラスの「竜王戦」県大会で見事優勝、なんと二連覇だそうだ。二年連続で、全国高等学校文化連盟将棋新人大会（岐阜にて開催）に駒を進めている。

■二年の齋藤莉菜さんは大会ごとに自己ベストを更新し、新春に行なわれた第 27 回都道府県対抗女子駅伝競走大会の島根代表メンバーに抜擢。惜しくも大会直前の故障で出走を逸したが、社会人を含めて県を代表する長距離ランナーとして今後の活躍が期待されている。

■一年の宮本彩さんが、文才で連続の受賞。第５回全国高校生環境論文 TUES カップの最優秀賞を見事受賞。続いて第 54 回青少年読書感想文コンクール県予選で優秀賞を獲得した。

編集後記

☞昨日、映画「少年メリケンサック」を観た。中年パンクロッカーの再生と宮崎あおい扮する新米マネージャーの成長の物語だ。☞彼女同様「パンクロック」は共感できないが、熱いハートを胸に、苔むさぬ転がる石の如く、新鮮な視点で津和野高校同窓会の今を伝えていきたい！キープ・オン・ザ・ロックンロール！（藤山）

☞ 100 周年事業で津高の古いアルバムから生徒の写真を数多くスキャンした。あの白い３本線のセーラー服は昔から全く変わっておらず、モノクロなら、自分が現役の頃か、生まれた頃か、時代の見分けがつかない。違うのはスカートの丈ぐらいだろうか。☞津高の濃紺のベースと白タイ、スリムな白３ラインの組み合わせは、本当に品がある。変わって欲しくないひとつだ。☞実は当初、記念事業で『津高制服リカちゃんストラップ』なるものの製作の話があった。ちゃんとタカラで作ってもらうもので、実現すればかなりのプレミアム物。夏服バージョンもある。製作ロットの関係上、かなりの費用が見積もられ、売れないとアウト、という判断でお蔵入りになった。☞もし「千円でも絶対欲しい」という人が２千人集まれば、再計画も夢ではないのだが。（青木）

発行 / 津和野高校同窓会
◎年一回　３月発行
〒 699-5605
島根県鹿足郡津和野町後田ハ 12-3
島根県立津和野高等学校内
同窓会事務局
☎ 0856-72-0106　fax0856-72-0329
http://www.shimanet.ed.jp/tsuwano/